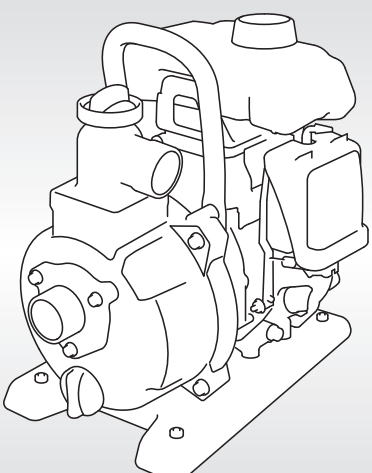
HONDA

ポンプ

WX15T

取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

お買いあげありがとうございます。
お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいた販売店またはサービス指定店にお気軽にお申しつけください。

取扱説明書について
この取扱説明書は
・本機を操作するときは、必ず携帯してください。
・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店またはサービス指定店にご注文くださ い。

本製品は、（一社）日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合しています。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいたポンプで安全かつ能率的な作業をする手助けとして編集されたものです。
取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性を説明し ています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただ き指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目次

安全にお使いいただくためこれだけはぜひ守りましょう.... 4
安全ラベル 7

各部の名称と取扱いをおぼえましょう 8
エンジンスイッチ 10
エンジン回転調整レバー 10
始動グリップ 11
チョークレバー 11
燃料コックレバー 12
よび水注入プラグ 12
連結器 13
オイルアラート機構 13

ホースの取付けかた 14
吸引ホース・吐出ホース 14

エンジンをかける前に点検しましょう 17
燃料の点検 17
エンジンオイルの点検 19
エアクリーナー（空気清浄器）の点検 20
よび水の点検 21
ホースバンド、連結器の締付け点検 22
各部の締付け点検 22
ストレーナー（ろ過装置）の点検 22

エンジンのかけかた 23

エンジンのとめかた 27

定期点検を行いましょう.....29

点検・整備のしかた.....30
エンジンオイルの交換.....30
エアクリーナー（空気清浄器）の清掃.....32
点火プラグの点検・調整・交換.....33

長期間使用しないときの手入れ.....34

故障のときは.....37

主要諸元.....38

安全にお使いいただくためこれだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

- **作業を始める前に**
- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止する方法を習得してください。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機を運転操作させないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法を良く説明し、取扱説明書を良く読むように指導してください。
- 過労や飲酒、薬物を服用して本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 日常点検、整備を必ず行い本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態や問題のある状態で操作すると、ケガをしたり本機を損傷する原因となります。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花など火気を近づけないでください。
- 燃料はこぼさないように注意して所定のレベル（給油限界位置）を超えないように補給し、燃料給油キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合はきれいにふき取り、よく乾かしてからエンジンを始動してください。
- 排気ガス中には、有害な成分が含まれています。排気口は風通しの良い場所に向け、ご使用になる方はもちろん、まわりの人や動植物などにも十分注意してください。
- 室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク内など換気の悪い場所では使用しないでください。酸素不足や有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。

警告

- 本機は平坦な場所で使用してください。不整地（地面が凹凸していたり軟らかい場所）や傾斜地、崖の近くで使用すると、本機が振動により転倒、移動、落下し損傷するばかりでなく、燃料漏れにより火災のおそれがあります。
- 本機の改造は行わないでください。故障の原因となるばかりでなく思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- ガソリンなどの燃えやすい液体や、酸など酸性の強い液体には使用しないでください。本機を損傷するばかりでなく、火災や爆発などが発生し死傷事故を引き起こすおそれがあります。
- メタンガスなど可燃性のガスが発生する可能性のある場所では使用しないでください。火災や爆発などにより死傷事故のおそれがあります。また下水道などで使用する場合は、可燃性のガスが発生していないことを確認してから吸水してください。
- 海水、温泉水、化学薬品、油脂類などには使用しないでください。腐食を防止する対策は施されていないため故障の原因となります。
- 泥水を吸水しないでください。ポンプ内部が損傷するおそれがあります。

・使用中

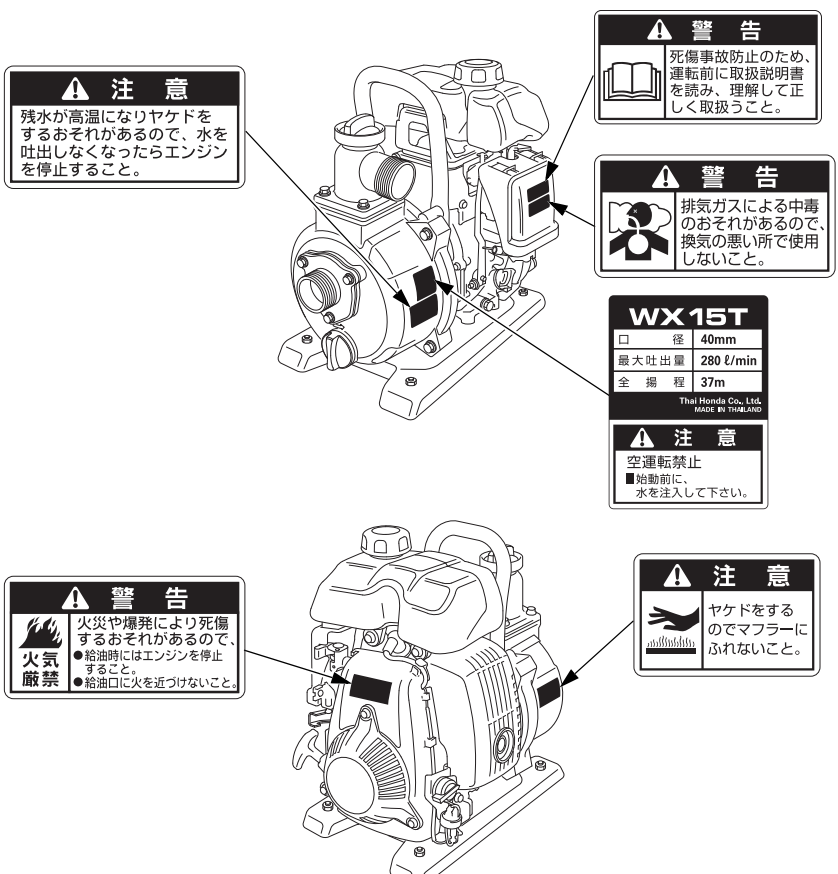
- 使用中は建物およびその他の施設から、本機を 1 m 以上離してください。また本機のまわりに危険物（油脂類、セルロイド、火薬など）や燃えやすい物（わらくず、紙くずなど）を近づけないでください。
  本機の熱や排気ガスにより火災のおそれがあります。
- 使用中に送水（吸水）しなくなった場合は、すぐにエンジンを止めてください。送水（吸水）しない状態で運転を続けると、ポンプ内の残水が過熱し誤って触れるとヤケドをするおそれがあります。
- 使用中や停止直後はエンジン本体やマフラーなどに触れないでください。熱によりヤケドをするおそれがあります。
- 使用中は本機を傾斜させたり、移動しないでください。転倒や振動などにより燃料漏れを起こすおそれがあります。

警告

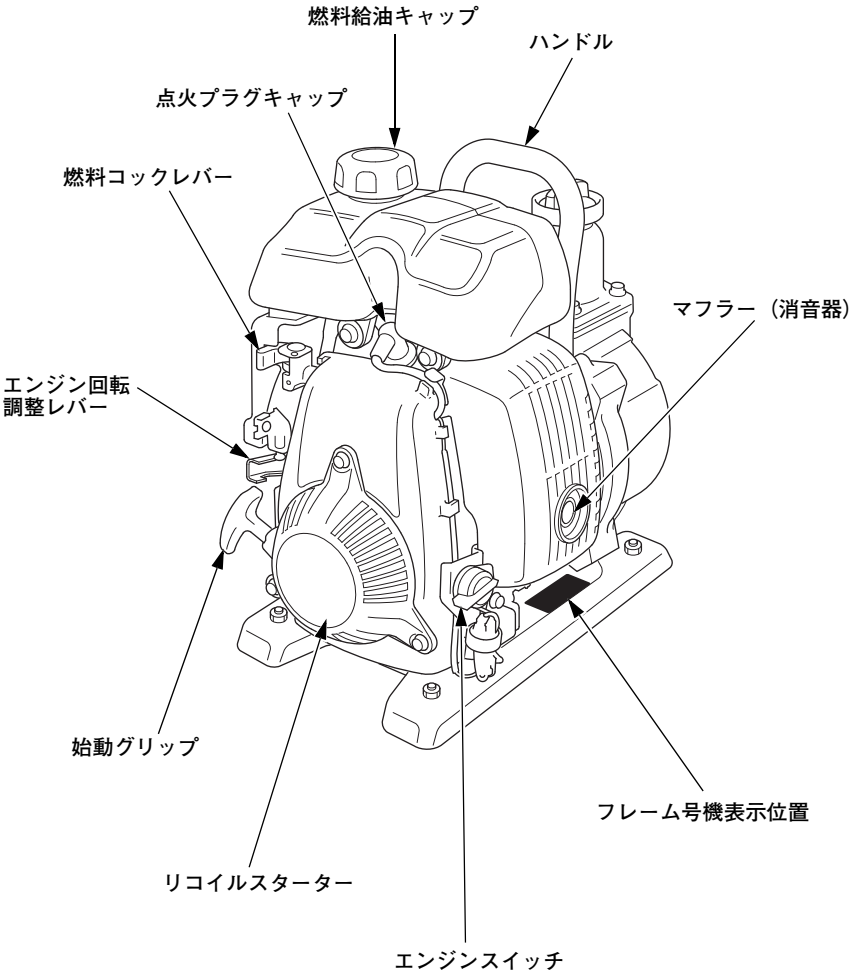
- 使い終わったら
- 気温が低く水が凍結する気象条件で使用した場合は、排水プラグを外しポンプ内の水を抜いてください。ポンプ内に水が残っていると凍結し、部品が破損するおそれがあります。
- 各部の点検・清掃で本機に触れるときは、エンジンを停止し各部が冷えるまで十分に時間をおいてください。
- 長期保管前には、タンク内の燃料を抜き取り本機を火気や湿気のないところに保管してください。また、抜いた燃料は引火性があり、火災や爆発の危険があるので、所定の燃料タンクなどに入れ保管してください。
- 運搬時には、燃料タンク、キャブレター内の燃料を抜き取り、本機が転倒したり動いたりしないようしっかり固定してください。

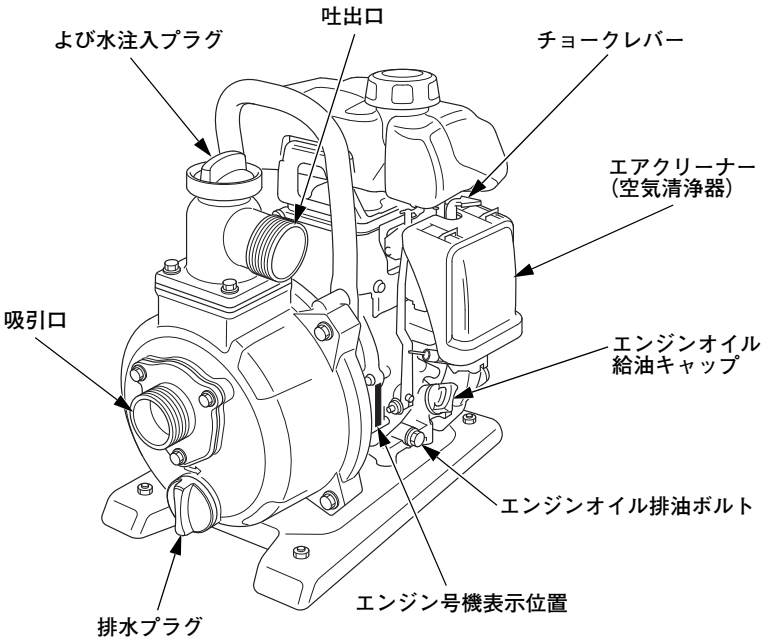
安全ラベル

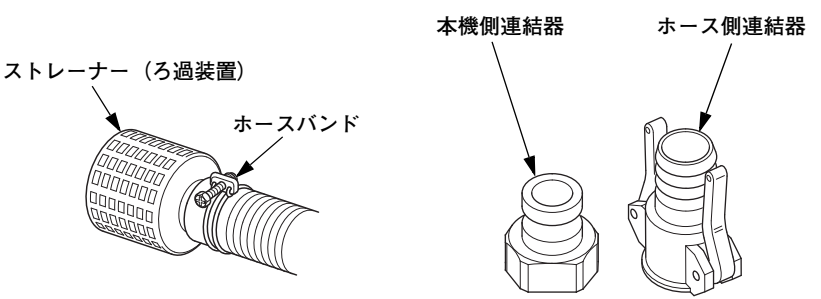
本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべてお読みになってからご使用ください。
本機に貼ってあるラベルの破れ、紛失または汚れなどでラベルが読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しいものに貼り替えてください。
ラベルの貼り替えについては、お買いあげ販売店またはサービス指定店へお問い合わせください。



各部の名称と取扱いをおぼえましょう

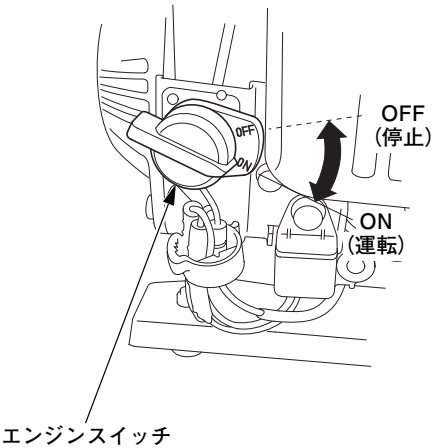



よび水注入プラグ
吐出口
チョークレバー
エアクリーナー
（空気清浄器）
吸引口
エンジンオイル
給油キャップ
エンジンオイル排油ボルト
エンジン号機表示位置
排水プラグ


本機側連結器
ホース側連結器
ストレーナー（ろ過装置）
ホースバンド

エンジンスイッチ

エンジンを運転、停止させるときに操作します。

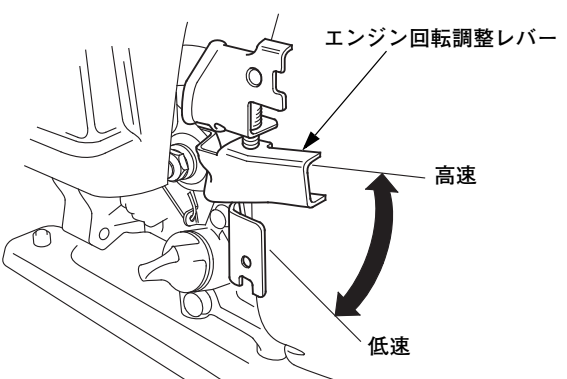


エンジン回転調整レバー

エンジン回転を調整するものです。

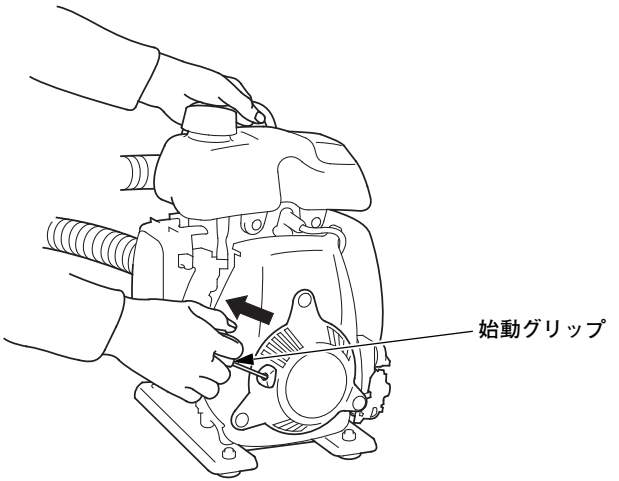
- レバーをあげる（高速側）… エンジン回転が速くなります。
- レバーをさげる（低速側）… エンジン回転が遅くなります。

ポンプの回転は、エンジン回転と連動します。



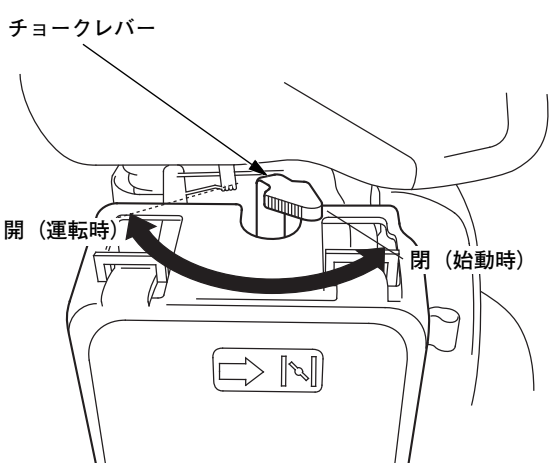
始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。



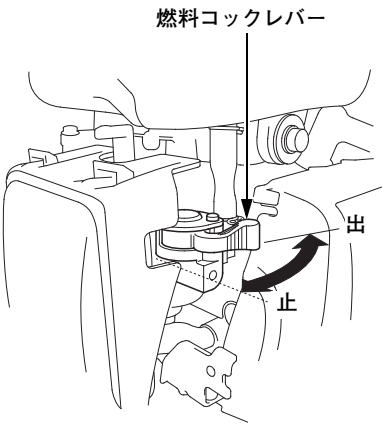
チョークレバー

エンジンが冷えているとき、またエンジンがかかりにくいときに操作します。



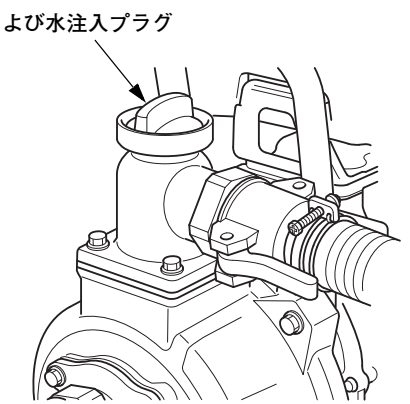
燃料コックレバー

燃料タンクからキャブレターまでの通路を開閉するときに操作します。
操作は確実に “出” “止” の位置に合わせてください。



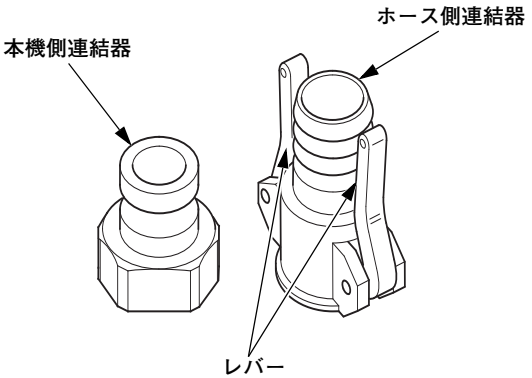
よび水注入プラグ

ポンプによび水を注入するときに操作します。



連結器

本機にホースを連結する時に使用します。



オイルアラート機構

本機エンジンにはオイルアラート機構（焼付き防止エンジン自動停止装置）が内蔵されています。運転中にエンジンオイルが不足すると、エンジンは自動的に停止します。エンジンオイルが不足したままでは始動できません。

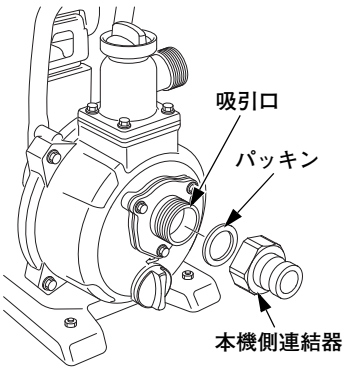
- エンジンオイルが規定量入っていても、本機が傾斜しているとオイルアラート機構が働き、エンジンが停止することがあります。

ホースの取付けかた

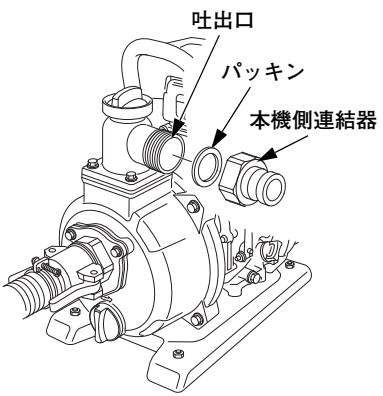
吸引ホース・吐出ホース

1. 本機側連結器の中にパッキンが入っていることを確認します。
2. 本機側連結器を確実に締付けます。

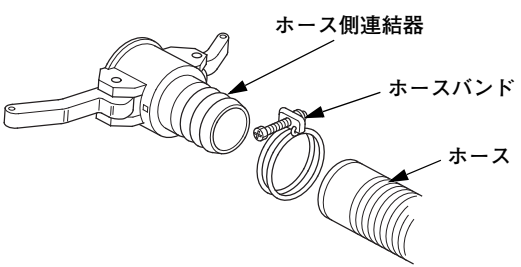
〔吸引口側〕



〔吐出口側〕

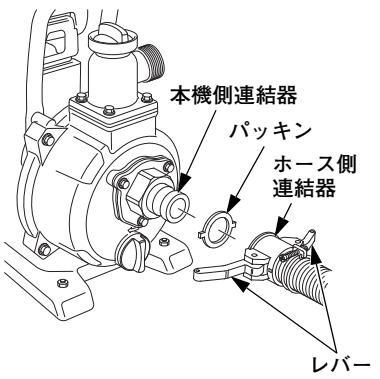


3. ホース側連結器にホースを組付け、ホースバンドを確実に締付けます。

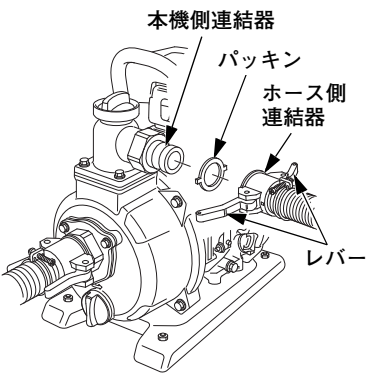


4. ホース側連結器の中にパッキンが入っていることを確認します。
5. レバーを広げた状態でホース側連結器を本機側連結器に組付けます。
   • レバーが他の部分に接触しないようにしてください。
   • ホース側連結器が本機側連結器に突き当たる位置まで組付けます。

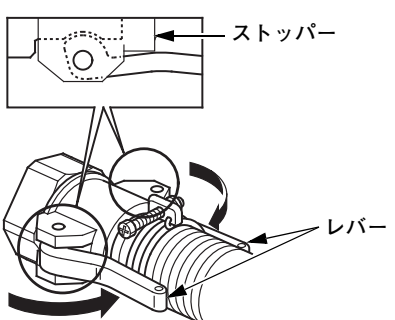
〔吸引口側〕



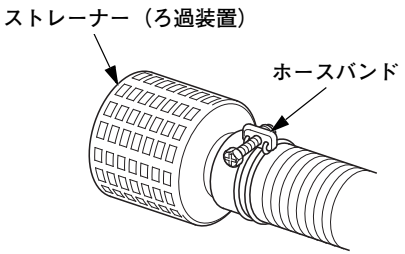
〔吐出口側〕



6. レバーをホース側に動かし、ストッパーに当たるまで倒します。



7. 吸引ホースの先端にストレーナー（ろ過装置）を取付け、ホースバンドを確実に締付けます。



取扱いのポイント

- **ホースバンド、吸引口側連結器を確実に締付け空気が入るのを防止してください。締付けが不完全だと吸水しない場合があります。**
- **吸引ホースの長さは、短い程吸込量が多く、吸水時間が短かくなります。極端にホースが長いと吸水しない場合があります。**
- **吸引ホースには必ずストレーナー（ろ過装置）を取付けてください。ストレーナー（ろ過装置）を取付けないと土砂やその他の異物などにより、本機が損傷するおそれがあります。**
- **送水（吸水）時、連結器の分離・結合を行わないでください。作業はエンジン停止時に行ってください。**

《取外しかた》

取外しは、取付けの逆手順で行います。

- 吸引・吐出ホースはお買いあげ販売店またはサービス指定店にご相談の上お買いもとめください。

エンジンをかける前に点検しましょう

⚠警告

点検は平坦な場所で本機を水平にし、エンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグキャップを外してください。

エンジンの周りや下側に燃料、オイルの漏れがないことを確認してください。

燃料の点検

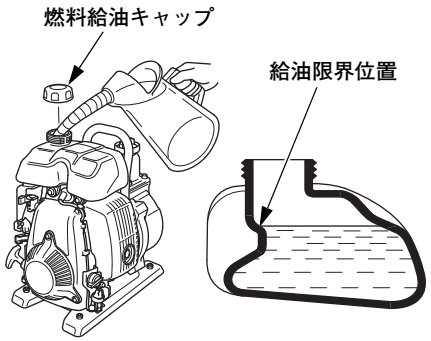
⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは

- **エンジンを停止してください。**
- **換気の良い場所で補給してください。**
- **火気を近づけないでください。**
- **身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しヤケドを負うおそれがあります。**
  本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- **ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれた場合は布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。**
- **ガソリンは注入口の口元まで入れず、給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとタンク内のガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。**

点検

燃料給油キャップを外し、燃料があることを確認します。少ないときには図の給油限界位置を超えないように補給してください。



補給

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン

- 燃料給油キャップを外し、給油限界位置を超えないように補給します。
- 補給後、燃料給油キャップを確実に締付けてください。

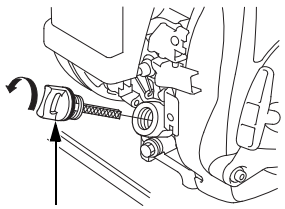
取扱いのポイント

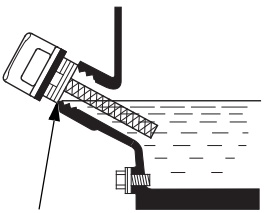
- 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。
- ガソリンは自然に劣化しますので 30 日に 1 回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。

エンジンオイルの点検

点検

エンジンを水平にした状態でオイル給油キャップを外し、上限までオイルがあることを確認してください。

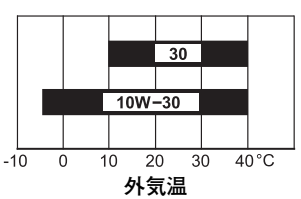




補給

- 少ないときには新しいオイルを注入口の口元まで補給します。
- 汚れや変色が著しい場合は交換してください。(30、31 頁参照)
  補給後、オイル給油キャップを確実に締付けてください。
- 推奨オイル：Honda 純正ウルトラ U 汎用（SAE 10W-30）
  または API 分類 SE 級以上の SAE 10W-30 オイルをご使用ください。

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

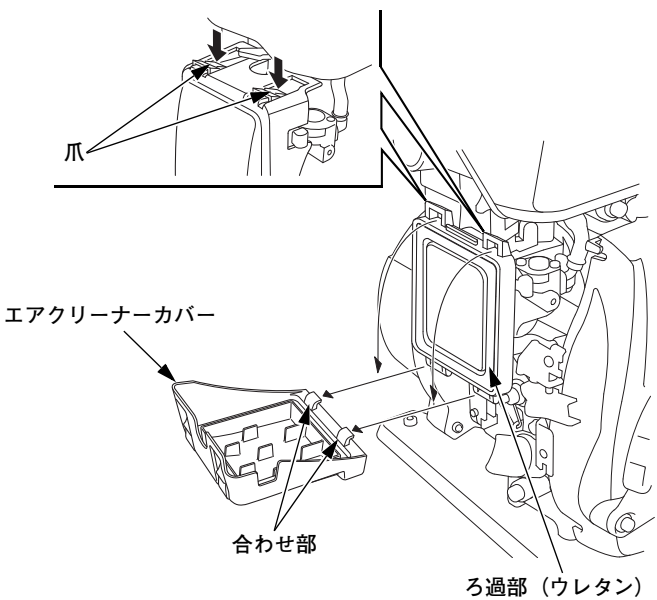


取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エアクリーナー（空気清浄器）の点検

1. エアクリーナーカバーを取外します。
   エアクリーナーカバーの取外しは、2 つある爪を押して外した後、下部の 2 か所の合わせ部を離します。
2. ろ過部（ウレタン）が汚れていないことを確認します。
   汚れがひどい場合は、ろ過部（ウレタン）の清掃を行ってください。(32 頁参照)
3. エアクリーナーカバーを取付けます。
   エアクリーナーカバーの取付けは、下部の 2 か所の合わせ部を組付け後、上部の 2 つある爪を確実に組付けて行います。



取扱いのポイント

- **エアクリーナーカバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。**
- **エアクリーナーカバーやろ過部（ウレタン）を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。**

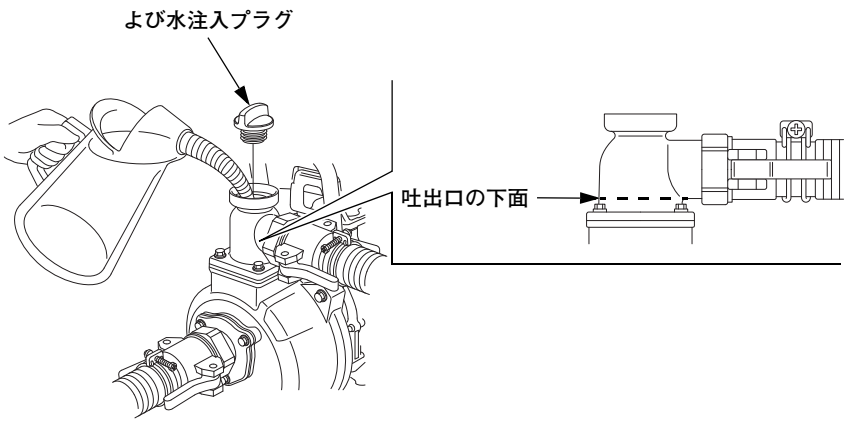
よび水の点検

よび水注入プラグを外し、吐出口の下面までよび水があることを確認します。少ないときには補給してください。

- よび水が少ないとポンプは水を十分に吸い上げません。
- 補給後、よび水注入プラグを確実に締付けてください。

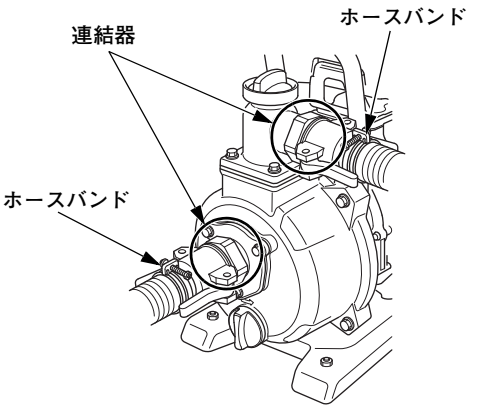
取扱いのポイント

よび水なしでの空運転はしないでください。過熱してポンプのシール部を損傷するおそれがあります。万一空運転した場合は、エンジンを停止して、すぐによび水を入れずポンプ部の温度が下がってから入れてください。



ホースバンド、連結器の締付け点検

ホースバンド、連結器の締付けにゆるみがないことを確認します。締付けが十分でないと、空気を吸い込み、吸水しない原因ともなりますので確実に締付けてください。

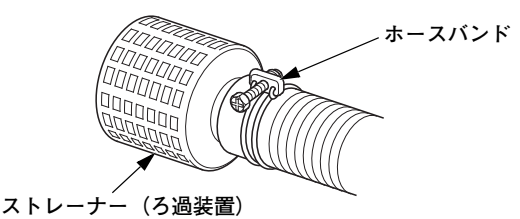


各部の締付け点検

各部のボルト、ナット類にゆるみがないことを確認します。
ボルト、ナットにゆるみがある場合は確実に締付けてください。

ストレーナー（ろ過装置）の点検

- ホースバンドの締付けにゆるみがないことを確認します。
  ストレーナーが外れていると石、小枝、その他の異物等を吸い込み損傷の原因になります。
- ストレーナーが水中に沈んでいることを確認します。
  ストレーナーが空中に出ていると空気を吸い込み、吸水しません。
  また損傷の原因にもなります。

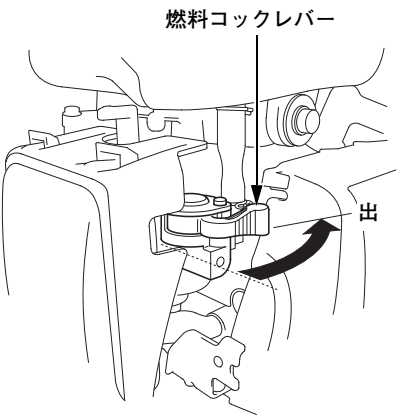


エンジンのかけかた

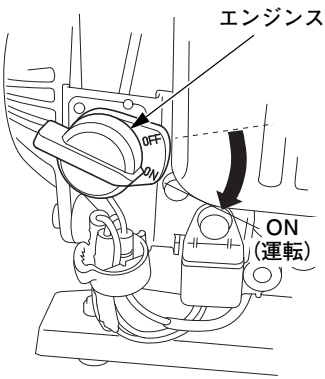
⚠警告

- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンを始動しないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- 本機は平坦な場所に設置してください。不整地（地面が凸凹していたり軟らかい場所）や傾斜地、崖の近くで使用すると、本機が振動により転倒、移動、落下し損傷するばかりでなく、燃料漏れにより火災のおそれがあります。

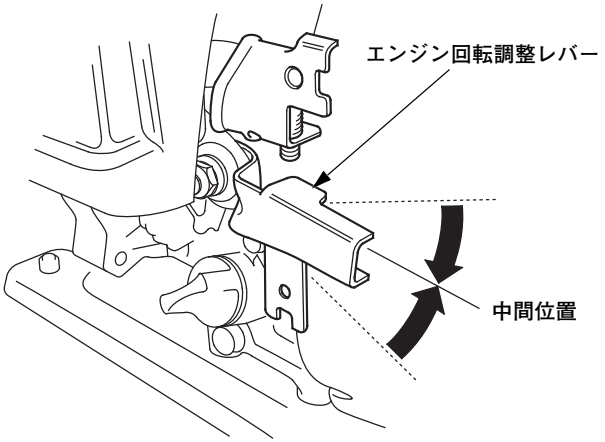
1. 燃料コックレバーを “出” の位置に合わせます。



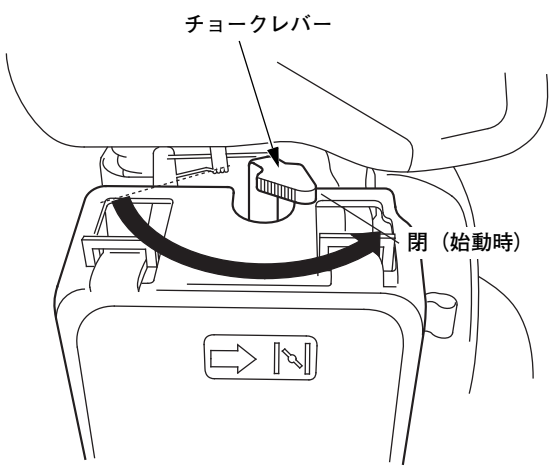
2. エンジンスイッチを “ON”（運転）の位置に合わせます。



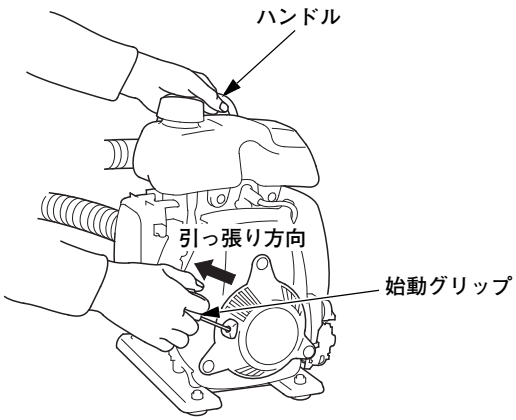
3. エンジン回転調整レバーを中間の位置まで動かします。



4. エンジンが冷えているときやエンジンがかかりにくいときには、チョークレバーを“**閉**”（**始動時**）の位置に合わせます。
エンジンが暖まっているときは操作不要です。



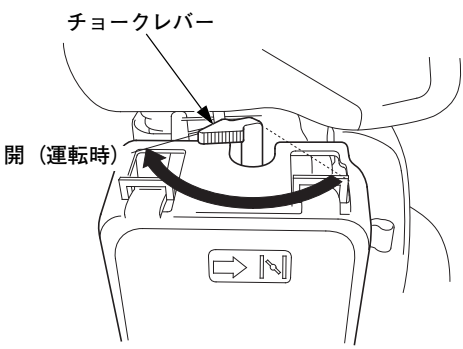
5. ハンドルを左手で握り、本機を押さえます。始動グリップを静かに引き、重くなるところで止めます。次に矢印方向に強く引っ張ります。エンジンが始動します。



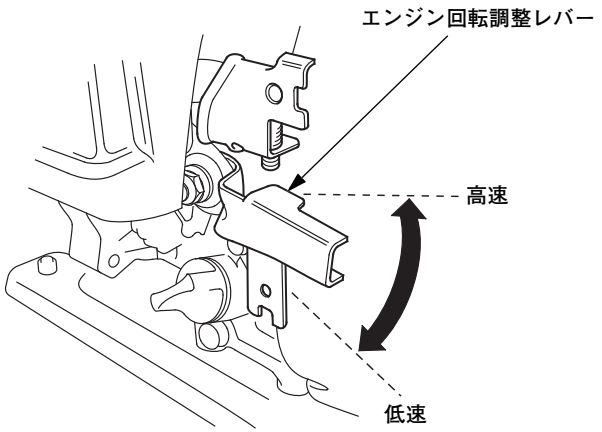
取扱いのポイント

始動グリップを引き上げた位置から手を放さないでください。グリップや回りの部品を破損することがあります。また運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響を与えます。

6. 2～3分間暖機運転を行います。
チョークレバーを操作したときは、エンジン回転が安定するのを確認しながら徐々に“開”（運転時）の位置に戻します。



7. エンジン回転調整レバーを使用したい回転に調節します。
   • レバーをあげる（高速側）… エンジン回転が速くなります。
   • レバーをさげる（低速側）… エンジン回転が遅くなります。

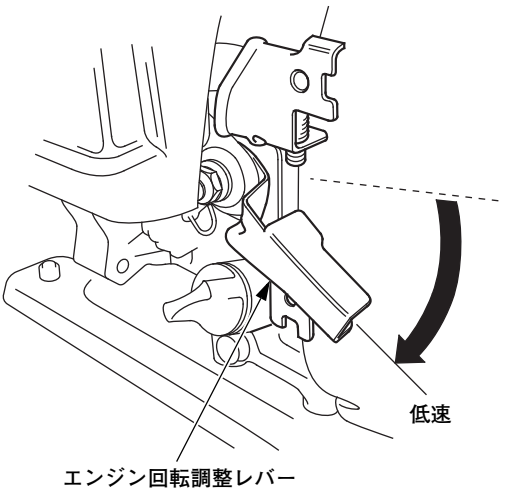


取扱いのポイント

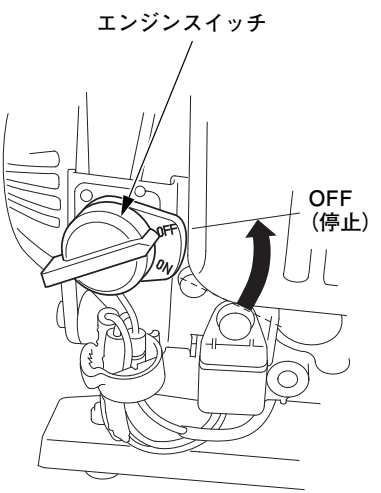
- ガバナアームを手で引くなどして無理やりエンジン回転を上げないでください。
  無理に回転を上げるとエンジンが損傷するおそれがあります。
- 使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店またはサービス指定店にお問い合わせください。

エンジンのとめかた

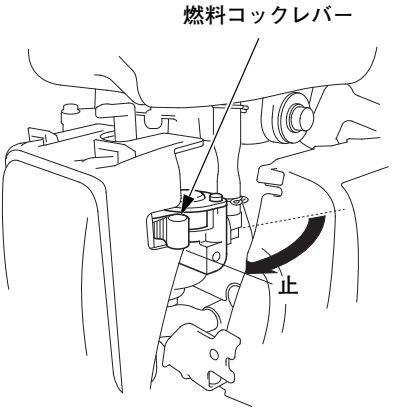
1. エンジン回転調整レバーを “低速” の位置まで戻します。



2. エンジンスイッチを “OFF”（停止）の位置に合わせます。

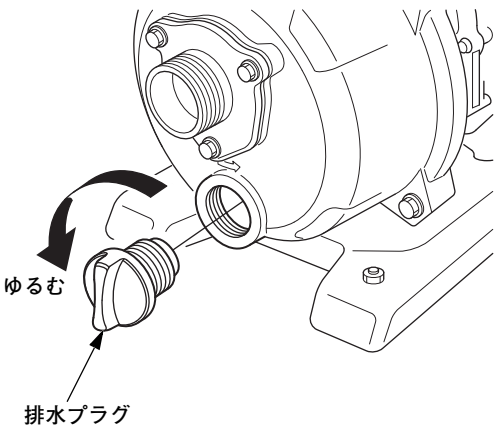


3. 燃料コックレバーを “止” の位置に合わせます。



取扱いのポイント

気温が低く水が凍結する気象条件で使用した場合は、排水プラグを外しポンプ内の水を抜いてください。ポンプ内に水が残っていると凍結し、部品が破損するおそれがあります。



定期点検を行いましょう

お買いあげいただきましたHondaポンプをいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を受けましょう。

定期点検整備項目

点検時期（1）／点検項目		作業前点検	1か月目または初回10時間運転目	3か月毎または25時間運転毎	6か月毎または50時間運転毎	1年毎または100時間運転毎	2年毎または300時間運転毎	参照頁
エンジンオイル	点検	○						19
	交換		○		○（3）			30
エアクリーナー	点検	○						20
	清掃			○（2）				32
点火プラグ	点検・調整					○		33
	交換						○	
各部締付け	点検	○						22
アイドリング回転	点検・調整					○（4）		−
吸入、排気弁のすき間	点検・調整						○（4）	−
燃焼室	清掃	300時間運転毎（4）（5）						−
燃料フィルター	清掃					○（4）		−
燃料タンク	清掃					○（4）		−
燃料チューブ	点検	2年毎（必要なら交換）（4）						−
インペラ	点検					○（4）		−
インペラ隙間	点検					○（4）		−
ポンプ吸入弁	点検					○（4）		−

(1) 点検時期は表示の期間毎または、運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
(2) ホコリの多い所で使用した場合、エアクリーナーの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。
(3) 高負荷、高温で使用する場合、エンジンオイルは25時間運転毎に交換してください。
(4) 適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店またはサービス指定店で実施してください。
(5) 表示時間を経過後すみやかに実施してください。

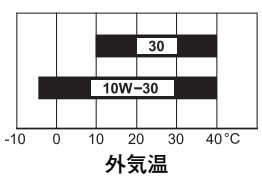
⚠注意
点検は平坦な場所で本機を水平にし、エンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグキャップを外してください。

エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《推奨オイル》 Honda 純正ウルトラ U 汎用（SAE 10W-30）
またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

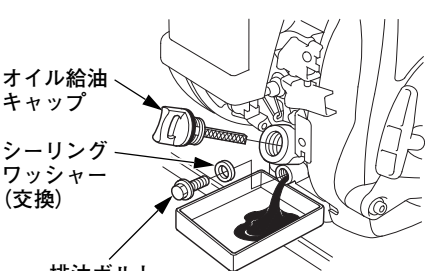


《オイル容量》 0.25 L

⚠注意
エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラーなどの温度、また油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

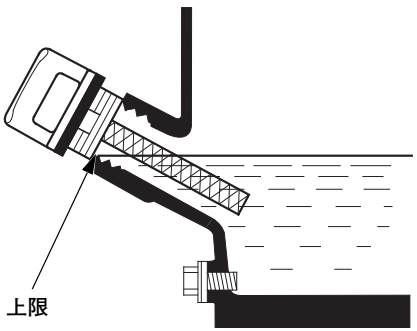
《交換のしかた》

1. オイル給油キャップ、排油ボルト、シーリングワッシャーを外してオイルを抜きます。



2. オイルが完全に抜けたら新しいシーリングワッシャーを取付け、排油ボルトを確実に締付けます。

3. エンジンオイルを上限まで注入します。



4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けます。

取扱いのポイント

- **交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面､排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務づけられています。法令に従い適正に処理してください｡不明な場合はオイルをお買いあげ販売店またはサービス指定店にご相談の上処理してください。**
- **オイルは、使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換をしてください。**
- **オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。**

エアクリーナー（空気清浄器）の清掃

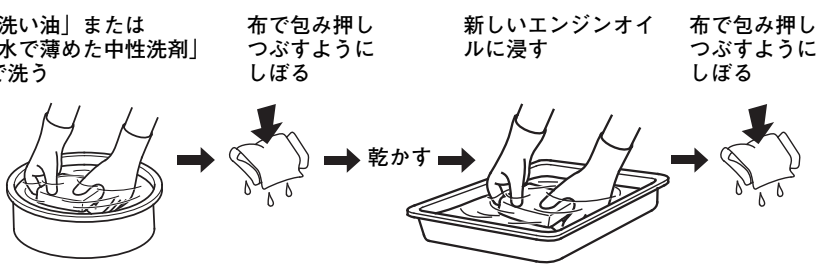
エアクリーナーが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

⚠警告

洗い油は引火しやすいので、タバコを吸ったり、炎などの火気を近づけないでください。火災を起こす可能性があります。
洗浄は換気の良い場所で行ってください。

《清掃のしかた》

1. エアクリーナーカバーを取外し、ろ過部（ウレタン）を取外します。(20 頁参照)
2. ろ過部（ウレタン）を洗浄・乾燥・含油して固くしぼります。
   - ろ過部（ウレタン）は、ねじるようにして絞らないでください。
   - エンジンオイル：ウルトラ U 汎用　SAE 10W-30
     （またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイル）



3. エアクリーナーカバーを取付けます。(20 頁参照)

取扱いのポイント

- **エアクリーナーカバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。**
- **エアクリーナーカバーやろ過部（ウレタン）を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。**

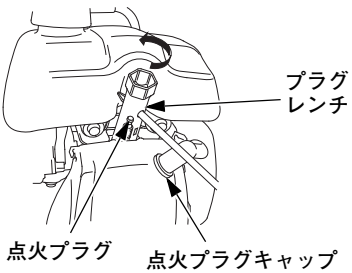
点火プラグの点検・調整・交換

⚠注意
エンジン停止直後マフラーや点火プラグなどは非常に熱くなっており、ヤケドをするおそれがあります。作業はエンジンが十分に冷えてから行ってください。

電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

《清掃のしかた》

1. 点火プラグキャップを外し、プラグレンチで点火プラグを取外します。
2. プラグの清掃はプラグクリーナーを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店またはサービス指定店をご利用ください。
   - プラグクリーナーが無いときは、針金かワイヤーブラシで汚れを落としてください。



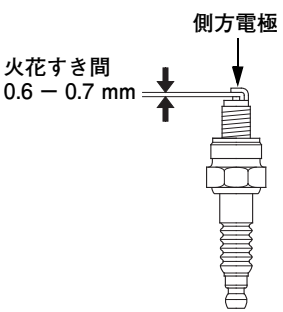
《調整》

側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。

火花すき間：0.6 ー 0.7 mm

《標準プラグ》

C5HSB (NGK)
U16FS-UB (DENSO)



取扱いのポイント

- **故障の原因となるので標準以外の点火プラグを使用しないでください。**
- **点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないようにまず指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締込んでください。**
- **点検調整後は点火プラグキャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因となります。**

長期間使用しないときの手入れ

長時間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。
30 日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレター内の燃料を抜いてください。

- 燃料を抜かないと、ガソリンが劣化して次回使用時に始動困難となり、故障の原因となります。

⚠注意

エンジン停止直後はエンジン本体、マフラーや点火プラグなどは非常に熱くなっており、ヤケドをするおそれがあります。作業はエンジンが十分冷えてから行ってください。

エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐため、点火プラグキャップを点火プラグから取外してください。

[1] 燃料タンク、キャブレター内の燃料を抜いてください。

⚠警告

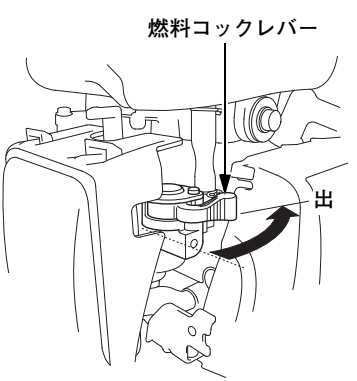
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。

- **換気の良い場所で行ってください。**
- **火気を近づけないでください。**
- **ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。**

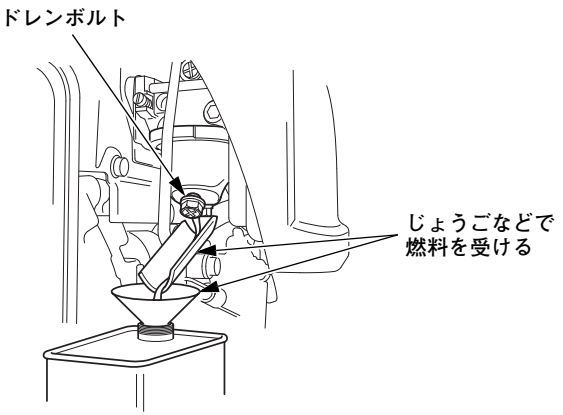
《抜きかた》

燃料を受けるため、適切な容器をキャブレターの下方に配置してください。確実に燃料を受けるため必要に応じ、じょうごなどを使用してください。

1. 燃料コックレバーを“出”の位置に合わせます。



2. ドレンボルトを１～２回転ゆるめて燃料を抜きます。
3. 燃料が出なくなったら、燃料コックレバーを “止” の位置に合わせます。
4. ドレンボルトを確実に締付けます。

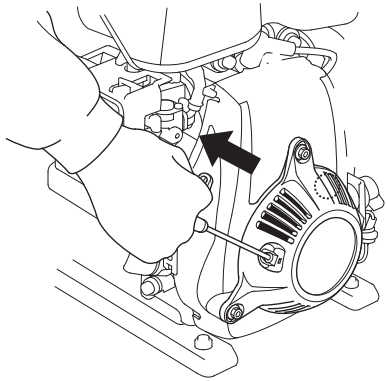


取扱いのポイント

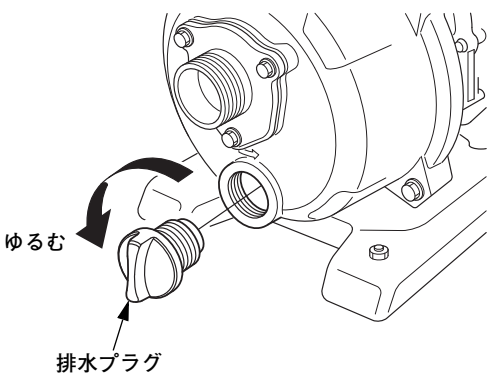
次回使用時は、新鮮な燃料を入れてください。

[2] エンジンオイルを交換してください。（交換方法は 30 頁参照）
[3] エアクリーナー（空気清浄器）を清掃してください。（清掃方法は 32 頁参照）

[4] 始動グリップを引き、重くなったところで止めてください。



[5]チョークレバーを“閉”(始動時)の位置にしてください。(11頁参照)
[6] 排水プラグを外し、吸引口または吐出口よりきれいな水でポンプ内の土砂、異物などを洗い出します。内部清浄後は完全に水を抜いてください。その後、排水プラグを確実に締付けてください。



[7] 本機の表面からグリース、オイル、汚れ、土の固まりなどの付着物を取除いてください。
[8] 子供の手の届かない場所で湿気、ホコリの少ないところに、シートなどかけて保管してください。

故障のときは

まずご自分で次の点検を行い、その上でなお異常のあるときには、むやみに分解しないでお買いあげ販売店またはサービス指定店にお申しつけください。

不具合の内容	点検（故障診断）		原因（状態）	対　応
エンジンが始動しない	始動手順	23～26頁の手順通り行われていない	エンジンスイッチが“停止”	“運転”にする
			始動グリップの引きかたが遅い	勢いよく引く
	燃料タンク内の燃料	ない	燃料切れ	補給（18頁参照）
		ある	燃料フィルターの目詰まり	販売店で点検整備
			燃料系の目詰まり	販売店で点検整備
			キャブレターの異常	販売店で点検整備
	エンジンオイル	不足している	オイルアラート機構の作動	補給（19頁参照）
	点火プラグキャップ	外れてる	点火プラグキャップの点火プラグへの取付け不良	確実に取付ける
	点火プラグ	電極の不良	汚れ	清掃（33頁参照）
			火花すき間の異常	調整（33頁参照）
			その他の点火プラグ異常	交換
エンジンが加速しない	エアクリーナーのろ過部（ウレタン）	汚れてる	ろ過部（ウレタン）の目詰まり	清掃（32頁参照）
	燃料フィルター	汚れてる	燃料フィルターの目詰まり	販売店で点検整備

ポンプが吸水しないとき、または揚水量が少ないときは次の点を確認しましょう。

- ホースバンド、連結器の締付けは完全ですか？
- よび水は吐出口の下面まで入っていますか？
- 吸入ホースが長過ぎませんか？
- 吸入揚程が高過ぎ（最大８m）ませんか？
- ストレーナーが水中に沈んでいますか？

主要諸元

〈ポンプ〉

項目	主要諸元
モデル	WX15T
型式	WAHT
吸込側口径	40 mm (1.5 インチ)
吐出側口径	40 mm (1.5 インチ)
全揚程	最大 37 m
吸込揚程	最大 8 m
最大吐出量	毎分 280 L
外観寸法	
全長	355 mm
全幅	275 mm
全高	375 mm
乾燥質量[重量]	9.1 kg

〈エンジン〉

モデル	GXH50T
形式	強制空冷 4 ストローク単気筒立型（OHV）
排気量	49.4 cm^3
点火方式	トランジスタ式マグネト点火
エンジンオイル量	0.25 L
燃料タンク容量	0.77 L
点火プラグ	C5HSB (NGK) U16FS-UB (DENSO)

注意：諸元は予告なく変更することがあります。

メ　モ

メ　モ

本製品についてのお問い合わせ・ご相談は、
まず、Honda 販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120 － 112010（イイフレアイオ）

受付時間　9:00 ～ 12:00　13:00 ～ 17:00

〒 351-0188 埼玉県和光市本町 8 － 1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

本製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

(1) 製品名、タイプ名
(2) ご購入年月日
(3) 販売店名
(4) フレーム号機＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（書込み控え欄）

HONDA

WX15T
30YH5601
00X30-YH5-6010

© 2022 本田技研工業株式会社
Printed in Thailand